【別紙様式３】

北海道七飯高等学校	渡島教育局

平成28年度キャリア教育・職業教育推進事業実施報告書

１　研究のテーマ

「社会的・職業的自立に必要な資質・能力（「基礎的・汎用的能力」）を育成するキャリア教育について」

２　研究の目的

(1) 多様な進路希望に対応する、類型コース選択制カリキュラムの編成を行い、将来を見据えたコース・科目選択を行うことで、自ら主体的に判断してキャリアを形成する上で必要な学力を高める。
(2) 学校外の社会と関わる機会を増やし、多様な他者の考え方や立場と接することで自他を理解することにより、コミュニケーション・スキルや課題対応能力の向上を図る。
(3) 地域社会等との関わりの中で自己理解を深化し、自己の役割を理解し、物事を前向きに考えて主体的に行動する態度を育てる。

３　研究の内容と評価

［評価欄　A:よくできた　B:概ねできた　C:あまりできなかった　D:できなかった］

	実践研究内容	評価
第２年次	(1) キャリア教育に関わる学校設定教科・科目の開設	
	○学校設定科目「産業社会と人間」を第２学年に１単位で設定 ・北海道教育大学函館校との高大連携により、ソーシャルスキル習得・活用のプログラムを実施した。 ・「働く意義・働き方・労働法制」等の「労働教育」を実施しコミュニケーションスキル習得やインターンシップ、ライフプランの作成などを行った。 ・生徒による授業評価を実施し、授業方法や内容の充実に役立てた。	A
	(2) 高等学校キャリア教育の全体計画の策定	
	○キャリア教育の全体計画の策定 ・本校でのこれまでの取組等を精査し、キャリア教育の全体計画を策定した。 ○連携会議の開催 ・七飯町内の小中学校長との連携会議を開催。キャリア教育の全体計画の改善・充実を図った。	B B
	(3) 各教科・科目のシラバスの改善・充実	
	・「課題対応能力」育成のため、ＮＩＥによるアクティブ・ラーニング実践校を視察した。 ・「基礎的・汎用的能力」の観点を取り入れ、シラバスの改善・充実を図った。	C B
	(4) 就業状況調査の実施	
	○回収率向上のための効果的な方策 ・学校ホームページにおいて調査趣旨の説明を行った。 ・雇用主に対する調査趣旨の説明及び協力依頼文書の送付を行った。 ・調査期間及び回収期日を工夫した。（配布から回収まで２週間程度） ・初年度の結果分析を添付するなど、本事業への関心を喚起した。 ・就業状況調査の回収率が、前年度38％から39％に向上した。	B
	(5) キャリア教育に関わる取組の実施	
	・２年生全員を対象にインターンシップを実施し､職業観・勤労観の育成を図った。	A

	・１・２年生全員を対象に、進路ガイダンスや見学会を実施し、自分の進路や学習について主体的に選択する態度を養った。	A
	(6) 研究に対する指導・助言・評価	
	・事業リーフレットを作成し、配布した。 ・学校ホームページを活用し、事業の広報や成果の公開等を行った。 ・学校評議員会において事業成果等を報告し評価を受けた。 ・学校評価を実施し、内容等の改善・充実に努めた。 ・キャリア教育推進委員会による中間まとめを行い、次年度に向け改善点を探った。 ・運営指導委員会を２回実施し、中間的な評価と指導を受けた。	C C B B B B

4　実践研究の成果

(1) ソーシャルスキル教育（北海道教育大学函館校　本田真大准教授との高大連携の取組）

① キャリア教育の基盤であり、生涯に渡って欠くことのできない基本となるソーシャルスキル習得・活用のプログラムを、基礎的・汎用的能力との関連を意識して実施した。

	基礎的・汎用的能力の４つの具体的内容とプログラムの関連				
	プログラム	人間関係形成 社会形成	自己理解 自己管理	課題対応	キャリア プランニング
活用 （汎用）	②動機づけ	○	○	○	
	④あたたかい言葉かけ	◎	○	◎	
	⑥上手な伝え方２	◎	○	◎	
	⑦スキルの総合練習	◎	◎	◎	
修得 （基礎）	③上手な聴き方	○	◎		
	⑤上手な伝え方１	○	◎		
まとめ	①ガイダンス		◎		○
	⑧まとめ		◎		○

② ソーシャルスキル習得・活用のプログラムの開発と分析を大学が、実施を本校として、逐次、状況をフィードバックすることで効果的な指導を行うことができた。

③ 親和性のスキル学習の後に、主張性を高めるスキル学習を行うといった系統的な学習によって、生徒アンケートの結果に統計上の有為な向上がみられた。（本田研究室での分析）

○ソーシャルスキルの各側面ごとの得点の変化

	親和性				主張性		援助性			
	上手な聴き方		あたたかい言葉かけ		主張性		サポート		相談	
実施回数	１回	２回	１回	２回	１回	２回	１回	２回	１回	２回
平均値	3.79	3.86	4.07	4.12	3.2	3.45	3.62	3.78	3.34	3.48
標準偏差	.50	.57	.47	.55	.54	.78	.54	.63	.72	.71

○被援助志向性の得点の変化

	被援助に対する期待感		被援助に対する抵抗感	
実施回数	１回	２回	１回	２回
平均値	3.47	3.07	3.01	2.68
標準偏差	.67	.77	.90	.88

〔被援助志向性〕
①被援助志向性が肯定的であると‥
・相談への期待感が高く、抵抗が少ない
・悩んだ時にも孤立せず相談しやすい
②友人に相談したり助けてもらったりすることに対する態度や考え方について、このプログラムを通じて態度変容を促すことを目的として実施した。

(2) 「産業社会と人間」、「総合的な学習の時間」での取組

① 上記のソーシャルスキル習得・活用のプログラムのほかに、キャリア発達を目的とした授業を実施した。

② 主な取組

キャリア教育講演会（２年・２回)、なるには説明会（１年)、進学ガイダンス（１・２年)、就職ガイダンス（１・２年)、就職希望者ガイダンス（２年)、企業訪問（３年)、看護体験（３年)、卒業生と語る会（２年)

③ 生徒自己評価

活動を振り返って（%）	良 ←			→ 悪	
	5	4	3	2	1
この活動はためになった	74.8	19.1	5.2	0.9	0.0
この活動は参加しやすかった	57.8	31.0	10.3	0.9	0.0
積極的に質問できた	31.9	19.8	21.6	14.7	12.1
集中して話を聞くことができた	74.1	16.4	6.0	3.4	0.0
考えながら話を聞くことができた	29.3	22.4	26.7	17.2	4.3
具体的な目標について考えることができた	37.1	39.7	17.2	6.0	0.0

・「この活動はためになった」「集中して話を聞くことができた」「具体的な目標について考えることができた」の項目で80%程度の生徒が肯定的な回答をしていることから生徒が本事業の意義を理解し、キャリア形成に役立つと考えていることが分かる。

・一方、「積極的に質問する」「考えながら聞く」などの数値が低く、生徒の課題意識形成への働きかけには一層の工夫が必要である。

3) 就業状況調査および離職状況調査

就業状況調査（卒業生対象の調査）

	対象者	回答数	継続就業	離職経験	離職率
H26.3卒	59	26	20	6	18%
H27.3卒	51	20	16	4	
H28.3卒	56	19	17	2	

※回収率39%
前年度調査38%

離職状況調査（企業対象の調査）

	対象者	判明数	継続就業	離職経験	離職率
H26.3卒	59	44	31	13	22%
H27.3卒	51	41	30	11	
H28.3卒	56	48	42	6	

※就業状況調査と合わせた判明率80%

離職までの期間

期間	１年未満	1～2年	2～3年	不明
人数	17	5	5	3

・卒業生に対する「就業状況調査」は回収率向上をねらって、年末年始を含んだ時期を設定したが、回収率の大幅な向上にはつながらなかった。

・企業に対して、状況と意見の聴取のためのアンケートを独自に実施した。企業の考えも分かり、大いに参考になった。

〔調査結果〕

○卒業生に対する調査の他、企業、１・２年生、３年生就職希望者に対しても関連項目（社会人として身に付けるべき資質・能力、早期離職を防ぐために高校がすべきこと、就職先として重視する条件、企業が求める資質・能力、早期離職の原因）のアンケートを実施した。

○意見傾向の変化や企業の考えをもとに、次年度計画策定上の参考とした。

(4) インターンシップ

① 対　象　２年生全員（118名）

② 期　間　平成28年７月14日(木)～15日(金)　２日間

③ 場　所　七飯町・函館市の36事業所

④ 成果と課題

・コミュニケーションの重要性、前向きに取り組む姿勢の大切さを身を持って学習できた。

・中学時の就業体験とは異なる実感を持って、勤労観を改めて考えることができた。
・協力企業へのアンケートから「挨拶・明るさ・積極性」への課題が指摘されたが、事後において、生徒に考えさせることで、企業が求める人材像をあらためて認識させることができた。

５　課題と今後の取組

課　題	今後の取組
(1)「産業社会と人間」では、年間計画に基づいた体系的なキャリア教育指導が実施できたが、従前から行っている様々な取組との関連を十分に図ることができない面もあった。	(1) 総合的な学習の時間、ＬＨＲ、各教科、学校行事との関連を明確にし、３年間の体系的な指導とするための計画を策定する。
(2) 高大連携により２年生で実施したソーシャルスキル習得・活用のプログラムは効果測定においても良好な結果となったが、学校生活の様々な場面で活用する指導にまでは至らなかった。	(2) 実施学年を１学年に変更するとともに、学校生活の場面に応じて活用させる指導を実施し、スキルの定着と応用力の育成を図る。
(3) 就業状況調査や離職状況調査によって、生徒・卒業生・企業の考えの違いが明らかになった。	(3) 調査結果の分析と職員での共有を進め、課題となる力の育成を念頭に置いたシラバスの改良を行う。
(4) 指定事業への取組状況は運営指導委員会をはじめ、学校評議員会、町内諸学校との連絡会議、各種学校訪問等において公表・周知してきたが、一般に対する積極的な公表には至らなかった。	(4) 学校ホームページなどによって、時宜を捉えた公表を実施するとともに、事業リーフレットを作成・配付し事業を広く周知する。

６　参考資料

（１）就業状況調査および離職状況調査と在校生アンケートの分析（一部）

Ｑ　就職先に重視する条件（３年生就職決定者による回答の多い順にソート）

	１年	２年	３進	３就	卒
労働時間・休日・休暇	18	18	18	19	18
仕事の内容	14	11	10	17	11
会社の将来性・安定性	16	16	12	15	11
職場の人間関係	8	13	14	11	4
年収（賃金）	23	19	21	11	9
勤務地・通勤の便	2	2	1	6	14
福利厚生	0	0	3	4	8
会社の評判	2	5	4	4	4
採用形態	1	2	1	3	7
会社規模	2	2	1	2	3
会社の経営理念・社風	1	1	1	2	0
仕事と家庭の両立	2	3	3	2	0
昇進やキャリアの将来性	2	1	1	1	3
転勤の有無や頻度	1	1	2	1	2
能力開発の機会	0	2	1	1	2
職場の作業環境	2	3	3	1	0
会社の知名度	1	1	3	0	3
女性を活用する職場かどうか	2	0	0	0	1
セクハラ・パワハラがない	1	1	2	0	0
その他	1	0	0	0	1

※１・２年生では「賃金」を重視しているが、３年生就職希望者では、重要度が下がっている。このことから３年間を通じた指導の中で勤労観の適正化が図れていると評価できる。

Ｑ　企業が求める資質能力（企業による回答の多い順にソート）

	１年	２年	３進	３就	卒	企
コミュニケーション能力	25	25	26	30	21	21
前向きに考える力、忍耐力	9	9	10	12	15	20
意欲をもって取り組む態度	16	17	15	16	22	18
言葉遣いやマナー、身だしなみ	18	18	22	17	16	18
働く意義や役割の理解	8	10	5	4	7	8
読み書き計算など基礎・基本的な知識や技能	7	7	4	4	2	7
原因を追究したり、課題を発見する力	2	1	2	2	10	5
新たな発想を考える力	6	6	7	11	7	1
勤労観・職業観	2	1	2	1	0	1
その他	0	0	0	0	0	1
物事を論理的に考える力	2	3	3	1	0	0
専門的な知識や技能	6	3	4	3	2	0

「前向きに考える力・忍耐力」をどのように理解し、身に付けさせるかを考えていく必要がある。

Ｑ　離職の原因（離職経験者による回答の多い順にソート）

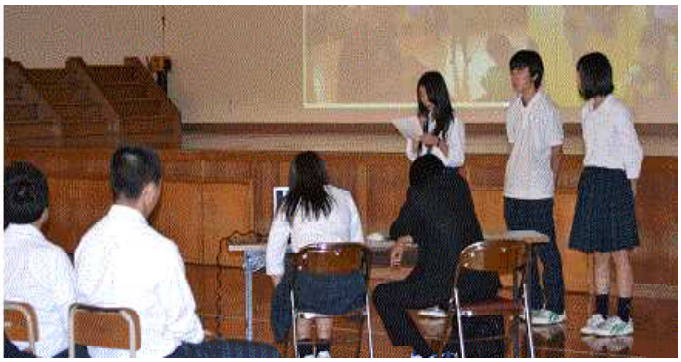
	１年	２年	３進	３就	卒
仕事上のストレスが大きい	21	19	26	20	19
労働時間が長い	7	6	11	6	13
肉体的・精神的に健康を損ねた	3	3	4	2	13
休日・休暇がない	10	9	7	9	9
仕事が面白くない	12	15	11	11	9
採用条件と実態が違ったから	2	3	4	7	6
職場の人間関係がうまくいかない	13	19	16	22	6
給与に不満	12	8	7	6	4
昇進などの将来性がない	2	2	3	1	4
目標になる人がいない	1	1	0	1	4
能力開発の機会がない	0	0	0	0	4
会社の将来性が期待できない	1	0	1	0	4
職場の作業環境が劣悪である	0	2	2	1	2
勤務地が遠い	0	1	0	1	2
自分の能力を向上させるため	0	0	0	0	0
仕事がきつい	8	7	5	8	0
ノルマのプレッシャーがきつい	2	3	3	5	0
経営者の考えや社風が合わない	3	3	0	1	0
福利厚生が不十分	1	0	1	1	0
その他	1	1	0	0	0

在校生が考える「人間関係」や「仕事内容への不満」で離職した者は実際には少なかった。

企業へのアンケートで実際の職場や仕事内容に関する事前の十分な理解が必要であるとの指摘が多く、生徒による企業訪問を早期から実施することの重要性をあらためて確認した。

２）活動の様子

インターンシップ



インターンシップ報告会

就職ガイダンス（３年、礼法指導）

なるには学習会（１年、宿泊研修）

〔キャリア形成への取組〕自ら課題を設定し、解決策を探り、周囲との協調のもとに工夫し、自分の言葉で表現する。（左）環境学習発表会　（右）コンコード帰国報告会

上級学校見学（１年、函館大学・短期大学）

キャリア講演会（２年、山形大学教授）

卒業生と語る会
（２年）